

認定看護師教育基準カリキュラム

(特定行為研修を組み込んでいない教育課程：A 課程教育機関)

分野：不妊症看護

平成 28 年 3 月改正

平成 29 年 3 月改正 (共通科目のみ)

平成 31 年 4 月改正 (共通科目のみ)

令和 3 年 3 月改正 (共通科目のみ)

(目的)

1. 不妊に悩むカップル及びその家族、生殖機能の維持・温存を必要とする対象者に対し、専門的な知識と技術を用いて、水準の高い看護実践ができる能力を育成する。
2. 不妊症看護分野において、看護実践力を基盤とし、他の看護職者に対して指導できる能力を育成する。
3. 不妊症看護分野において、看護実践力を基盤とし、他の看護職者に対して相談対応・支援ができる能力を育成する。

(期待される能力)

1. 不妊症の病態の把握に加え、社会情勢を踏まえた最新知識をもとに、不妊症看護分野の対象者を統合して捉え継続的にアセスメントを行い、治療過程に応じた看護実践、支援体制づくりができる。
2. 不妊治療、生殖補助技術を受ける対象者に対し、適切な情報提供や相談を行い、治療について納得した自己決定ができるように支援することができる。
3. 不妊予防や生殖機能の温存の視点から、思春期や成人期の若年者に健康教育の一翼を担うことができる。
4. 治療後の妊娠・分娩・産褥・育児期や更年期を健康に過ごすことができるように治療中からサポートすることができる。
5. 不妊症看護の実践を通して、役割モデルを示し、看護職者への指導・相談対応を行うことができる。
6. より質の高い医療を推進するため、多職種と協働し、生殖医療チームや連携した他チームの一員として役割を果たすことができる。
7. 生殖医療を必要とする患者・家族の権利を擁護し、適切な倫理的判断に基づき、自己決定を尊重した看護を実践する。
8. 生殖医療の特徴を理解したうえで、看護の立場からリスクマネジメントができる。

教科目一覧

	教科目名	必修/選択	時間数		
共通科目	1. 医療安全学：医療倫理	必修	15		105
	2. 医療安全学：医療安全管理	必修	15		
	3. 医療安全学：看護管理	必修	15		
	4. チーム医療論（特定行為実践）	必修	15		
	5. 相談（特定行為実践）	必修	15		
	6. 臨床薬理学：薬理作用	必修	15	小計	
	7. 指導	必修	15	105	
	8. 特定行為実践	選択	15		105（+305）
	9. 臨床薬理学：薬物動態	選択	15		
	10. 臨床薬理学：薬物治療・管理	選択	30		
	11. 臨床病態生理学	選択	40		
	12. 臨床推論	選択	45		
	13. 臨床推論：医療面接	選択	15		
	14. フィジカルアセスメント：基礎	選択	30		
	15. フィジカルアセスメント：応用	選択	30		
	16. 疾病・臨床病態概論	選択	40		
	17. 疾病・臨床病態概論：状況別	選択	15		
	18. 医療情報論	選択	15	小計	
	19. 対人関係	選択	15	305	
専門科目	1. リプロダクティブ・ヘルス	必修	15		255
	2. 性と生殖の形態・機能	必修	15		
	3. 不妊症・不育症の診断と治療	必修	45		
	4. 生殖医療と社会	必修	30		
	5. 不妊症看護概論	必修	30		
	6. 不妊治療と看護	必修	30		
	7. 不妊・不育症治療後の妊婦の看護	必修	15		
	8. 生殖補助医療ニーズと看護	必修	15		
	9. 不妊症看護のカウンセリング	必修	45	小計	
	10. 不妊症看護マネジメント	必修	15	255	
学内演習・臨地実習	不妊症看護演習	必修	60		240
	臨地実習	必修	180	小計 240	
			総時間数	600（+305）	

■共通科目

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
医療安全学： 医療倫理 (必修)	15	実践の場において、対象の人権擁護・知る権利・自律性（自己決定）を尊重した看護を提供するため、医療倫理についての理解を深め、実践活動にどのように反映できるか考察する。	1. 医療倫理の理論 2. 医療倫理の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
医療安全学： 医療安全管理 (必修)	15	医療現場における安全管理をめぐる取り組みの経緯、医療事故発生のメカニズムについて理解する。また、実践の場において、看護職者及び他職種との連携を図り、医療事故を防止するための情報収集・分析・対策立案・評価・フィードバックを実践する能力を習得する。	1. 医療管理の理論 2. 医療管理の事例検討 3. 医療安全の法的側面 4. 医療安全の事例検討・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習（医療安全）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価
医療安全学： 看護管理 (必修)	15	わが国の保健医療制度の仕組みと動向を理解し、社会や地域住民のニーズに対応する医療サービスや看護のあり方を考察する。また、実践の場において質の高い看護サービスを効果的・効率的に提供するための戦略や自身の役割機能の展開などについて検討する。	1. ケアの質保証の理論 2. ケアの質保証の事例検討	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
チーム医療論 (特定行為実践) (必修)	15	質の高い医療・看護の効果的・効率的な提供に向けたチーム医療の推進について考察する。また、多職種協働の課題及び集団や組織の目標・課題を達成する上で必要なリーダーシップについて理解する。	1. チーム医療の理論と演習・実習 2. チーム医療の事例検討 3. 多職種協働の課題 ※特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割を含む	[授業形態] 講義、演習及び実習（チーム医療）★ [評価方法] 筆記試験及び各種実習の観察評価

★「医療安全学:医療安全管理」と「チーム医療論(特定行為実践)」の実習は、医療安全及びチーム医療の実習について、いずれか一方又は両方を行うものとする。

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
相談 (特定行為実践) (必修)	15	対象及び組織内外の看護職者や他職種などに対してコンサルテーションを行う際の知識や方法論について習得する。さらに、自らの役割と能力を超える看護が求められる場合には、自ら支援や指導を受けることの重要性について理解する。	1. コンサルテーションの方法	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬理作用 (必修)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態を踏まえた薬物の作用機序と、主要薬物の薬理作用・副作用について理解する。	1. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
指導 (必修)	15	組織内外の看護職者に対して、実践を通して知識・技術を共有し、相手の能力を高めるための指導能力を習得する。	1. 生涯教育と生涯学習 2. 成人学習者への教育 3. 教材観（主題観）、対象者観、指導観 4. 学習指導案の作成・発表	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
特定行為実践 (選択)	15	特定行為実践のための関係法規を理解する。特定行為の実践に向け、根拠に基づいた手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後に再評価するプロセスについて理解する。また、特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を理解する。	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程（理論、演習）を学ぶ中で以下の内容を統合して学ぶ 1. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ①特定行為関連法規 ②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 2. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ ①手順書の位置づけ ②手順書の作成演習 ③手順書の評価と改良	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床薬理学： 薬物動態 (選択)	15	安全確実な薬剤投与を行うため、薬物動態について理解する。	1. 薬物動態の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床薬理学： 薬物治療・管理 (選択)	30	安全確実な薬剤投与・管理を行うため、主要薬物の相互作用、主要薬物の安全管理・処方について理解する。	1. 主要薬物の相互作用の理論と演習 2. 主要薬物の安全管理と処方の理論と演習 ※年齢による特性（小児/高齢者）を含む	[授業形態] 講義及び演習（事例を用いた検討を含む） [評価方法] 筆記試験
臨床病態生理学 (選択)	40	臨床解剖学・臨床病理学・臨床生理学を学び、病態生理学的変化を判断するための知識を習得する。 演習を通し、病態生理学的変化を判断するための知識を深める。	臨床解剖学、臨床病理学、臨床生理学を学ぶ 1. 臨床解剖学 2. 臨床病理学 3. 臨床生理学	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
臨床推論 (選択)	45	症候学、臨床検査・画像検査、臨床疫学を学び、演習を通して臨床推論に必要な知識を習得する。	臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学を学ぶ 1. 診療のプロセス 2. 臨床推論（症候学を含む）の理論と演習 3. 各種臨床検査の理論と演習 心電図/血液検査/尿検査/ 病理検査/微生物学検査/ 生理機能検査/その他の検査 4. 画像検査の理論と演習 放射線の影響/単純エックス線検査/ 超音波検査/CT・MRI/ その他の画像検査 5. 臨床疫学の理論と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{*1} 評価方法 ^{*2}
臨床推論： 医療面接 (選択)	15	医療面接の理論と演習・実習を通して、症状の変化に対応し、身体所見・検査所見から病態を把握する臨床推論のプロセスを理解する。	1. 医療面接の理論と演習・実習	[授業形態] 講義、演習及び実習 (医療面接) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 基礎 (選択)	30	身体診察の基本手技を理解し、実践できる。	身体診察・診断学 (演習含む) を学ぶ 1. 身体診察基本手技の理論と演習・実習 2. 部位別身体診察手技と所見の理論と演習・実習 全身状態とバイタルサイン/ 頭頸部/胸部/腹部/ 四肢・脊柱/泌尿・生殖器/ 乳房・リンパ節/神経系	[授業形態] 講義、演習及び実習 (身体診察手技) [評価方法] 筆記試験及び 各種実習の観察評価
フィジカル アセスメント： 応用 (選択)	30	小児・高齢者の特徴をとらえたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。 救急医療・在宅医療等の状況に応じたフィジカルアセスメントを理解し、実践できる。	1. 身体診察の年齢による変化 小児/高齢者 2. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論 (選択)	40	主要疾患の病態と臨床診断・治療を理解する。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/ 腎泌尿器系/内分泌・代謝系/ 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/ 神経系/小児科/産婦人科/精神系/ 運動器系/感覚器系/感染症/悪性腫瘍/その他	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験
疾病・臨床 病態概論： 状況別 (選択)	15	状況に応じた臨床診断・治療 (救急医療、在宅医療等) を理解する。	状況に応じた (あらゆる年齢・対象を含む) 臨床診断・治療を学ぶ 1. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習 2. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験

教科目	時間数	ねらい	単元 (ゴシック体：特定行為研修 共通科目 【学ぶべき事項】に記載の教育内容)	授業形態 ^{※1} 評価方法 ^{※2}
医療情報論 (選択)	15	実践の場において、研究論文等を含む医療情報を効率よく収集・解析・伝達するための方法を習得する。また、情報倫理の観点から、医療情報の適切な取り扱いについて理解する。	1. 医療情報の定義 2. 文献検索によるエビデンスの確認 3. 医療情報の収集と活用 4. 情報倫理 5. 医療情報管理	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。
対人関係 (選択)	15	実践の場において、対象の理解に必要な基本的知識やスキルを習得する。	1. 対人関係論 2. コミュニケーションスキル 3. 対人関係演習	[授業形態] 講義及び演習 [評価方法] 筆記試験・レポート、実技試験等による評価のいずれでもよい。

※1 「演習」：講義で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、議論や発表を行う形式の授業をいうこと。
症例検討やペーパーシミュレーション等が含まれること。

「実習」：講義や演習で学んだ内容を基礎として、少人数に分かれて指導者のもとで、主に実技を中心に学ぶ形式の授業をいうこと。実習室（学生同士が患者役になるロールプレイや模型・シミュレーターを用いて行う場）や、医療現場（病棟、外来、在宅等）で行われる。ただし、単に現場にいるだけでは、実習として認められないこと。

※2 全ての共通科目（「指導」「医療情報論」「対人関係」を除く）において筆記試験を行うとともに、実習を行う科目については構造化された評価表を用いた観察評価を行うものとする。

(厚生労働省「特定行為に係る看護師の研修制度」

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000077077.html>)

■専門科目・学内演習・臨地実習

	教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
	1. リプロダクティブ・ヘルス	広い視野から性と生殖における健康の維持・増進に必要な支援を実践するために、リプロダクティブ&セクシャル・ヘルス/ライツの概念ならびにその様々な課題と現状を理解できる。	1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツの概念と変遷 (2) ライフステージからみたリプロダクティブ・ヘルスの課題 (3) リプロダクティブ・ヘルスの指標と国内外の動向 (4) 国内外の母子保健統計 (5) 母子保健施策 2) セクシャル・ヘルス (1) セクシャル・ヘルスの概念 (2) 性の多様性 (3) 性の問題と生殖医療 3) 性と生殖を取り巻く家族と社会 (1) セクシャリティ (2) ジェンダーと性役割 (3) 家族観・子ども観の変遷	15
専 門 科 目	2. 性と生殖の形態・機能	不妊カップルへの看護実践、看護職者への指導・教育を行うために必要な生殖器系の形態・機能を理解できる。	1) 生殖器の解剖 2) 性機能と性反応 (1) 正常な性機能と性反応 (2) 性機能障害 3) 性周期とホルモン 4) 受胎のメカニズムと妊娠の成立 5) 生殖に関する遺伝 (1) 遺伝のメカニズム (2) エピジェネティクス・インプリンティング異常 (3) 遺伝に関する診断方法 (着床前診断・出生前診断)	15
	3. 不妊症・不育症の診断と治療	不妊・不育の診断と治療、生殖機能の保護を必要とする個人・カップルへの看護実践、看護スタッフへの指導・相談を行うために必要な基礎的知識と最新の情報を理解できる。	1) 不妊の原因 (1) 不妊因子 (2) がん治療と妊孕性 (3) 生活習慣・性感染症 2) 不妊症の検査・診断 (1) スクリーニング検査（基礎体温測定、超音波検査、内分泌検査、クラミジア抗体検査あるいは抗原検査、子宮卵管疎通性検査、精液検査、頸管因子検査） (2) 二次検査（腹腔鏡検査、子宮鏡検査等） (3) 卵巣予備能の検査 3) 不妊症の治療 (1) 一般不妊治療（タイミング療法・人工授精・薬物療法） (2) 生殖補助医療（体外受精-胚移植・顕微授精・凍結融解胚移植等） (3) 外科的療法（卵管形成術・精索静脈瘤根治術・精巣内精子回収術等） 4) 不妊に関連する合併症の治療 (1) 子宮筋腫・子宮内膜ポリープ (2) 子宮内膜症	45

教 科 目		教科目のねらい	単 元	時間数
専 門 科 目			5) 妊孕性温存療法（精子凍結・卵子凍結・胚凍結・卵巣組織凍結等） 6) 不育症の検査・診断 (1) 染色体検査 (2) 抗リン脂質抗体 (3) 子宮奇形の診断 (4) その他（頸管無力症、内分泌・代謝因子の診断） 7) 不育症の治療 (1) アスピリン療法 (2) ヘパリン療法 等 8) 生殖医療における遺伝カウンセリング (1) 定義・目的・対象 (2) 遺伝学的情報の提供 (3) クライアントの意思決定支援	
	4. 生殖医療と社会	生殖に関する課題に悩む個人およびその家族のニーズに応じた情報提供ならびに社会資源の紹介に必要な国内外の社会の現状と課題を理解できる。	1) 生殖医療を取り巻く社会・経済的側面 (1) 生殖医療の変遷と現状 (2) 特別養子縁組と里親制度 (3) 国・自治体・企業による支援（相談事業・治療費の助成・仕事との両立支援等） 2) 生殖医療と倫理 (1) 第三者が介在する配偶子・胚の提供と代理懐胎、子宮移植 (2) 着床前診断・出生前診断 (3) 減胎手術 (4) 子どもが出自を知る権利 (5) 生殖補助医療の適用範囲 3) 生殖医療と法 (1) 戸籍法と民法 (2) 日本の生殖医療に関する法的整備状況と判例 (3) 海外の生殖医療に関する法的整備状況 (4) 生殖医療に関する学会ガイドライン 4) セルフ・ヘルプ・グループ	30

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
5. 不妊症看護概論	不妊の問題の背景、看護の対象と役割を理解するために必要な関連概念・理論を学び、不妊症看護の課題や展望を明らかにして実践できる。	1) 不妊の問題とその背景 (1) 不妊(症)とは (2) 不妊治療・生殖医療の歴史・変遷と動向 (3) 不妊治療・生殖医療の特性 2) 不妊症看護の対象 (1) ライフステージと不妊(症) (2) 健康問題(疾病)と不妊(症) (3) 家族形成と生殖医療 3) 不妊症看護の役割 (1) 不妊症看護の専門性と役割 (2) 不妊症看護認定看護師に求められる能力 (3) 不妊症看護認定看護師の活動と課題 4) 不妊症看護の基礎理論 (1) 危機理論 (2) 喪失と悲嘆 (3) ストレスコーピング理論 (4) セルフケア理論 (5) エンパワーメント (6) 意思決定理論 (7) アサーション (8) 家族関係論 (9) 発達理論	30
6. 不妊治療と看護	不妊カップルがもつ、受診から治療終結を迎えるまでの潜在的/顕在的な問題を明確にし、その解決に向けての看護を理解し実践できる。	1) 初診時の看護 (1) 不妊治療に関する事前説明と相談 (2) 健康教育とセルフケア支援の実施 2) 検査時の看護 (1) スクリーニング検査を受けるカップルの看護 (2) 二次検査を受けるカップルの看護 3) 不妊治療中の看護 (1) 一般不妊治療を受けるカップルの看護 (2) 生殖補助医療を受けるカップルの看護 (3) 治療のステップアップ時の看護 (4) 治療が長期にわたるカップルの看護 (5) 男性不妊のカップルの看護 4) 治療終結期の看護 (1) アイデンティティの再構築 (2) 夫婦関係の再構築	30
7. 不妊・不育症治療後の妊婦の看護	不妊・不育症治療後の妊娠の特徴と問題を明確にし、妊娠への適応過程もしくは胎芽・胎児の喪失による急性悲嘆にある女性・家族のニーズを理解し実践できる。	1) 不妊治療後の妊婦の特徴 (1) 生殖医療と母子のリスク(高齢妊娠、多胎妊娠含む) (2) 不妊治療後妊婦の心理 2) 妊娠中の看護 (1) 妊娠の受容と不安に対する看護 (2) 周産期への移行の看護 3) 流産・死産時の看護 (1) 流産・死産とは(反復流産、習慣流産含む) (2) 流産・死産による急性悲嘆にある女性家族の反応と看護 4) 不育症の治療時の看護 (1) 不育症とは (2) 不育症治療中の看護の実際	15

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数	
専 門 科 目	8. 生殖補助医療ニーズと看護	生殖医療を必要とする個人・カップル・家族を支援するために、多職種・他施設との連携やフォローアップの必要性を理解し実践できる。	1) 遺伝カウンセリングを受けるカップルへの看護 (性染色体異常、高齢女性、習慣流産) 2) 性機能障害のカップルへの看護 (性機能不全群・脊髄損傷) 3) 提供配偶子を用いた治療時の看護 (無精子症、卵巣機能不全、性別違和) 4) 生殖機能温存を望むがん患者への看護	15
	9. 不妊症看護のカウンセリング	不妊に悩む個人およびカップルの心理を理解すると共に、精神的健康の保持・増進を支援するために必要な心理アセスメントおよびカウンセリングを理解し実践できる。	1) 不妊カウンセリング総論 (1) 不妊カウンセリングとは (2) カウンセリング理論 (相談カウンセリング) (3) カウンセリング技法 (基本技法) 2) 不妊に悩むカップルの心理 3) 心理アセスメント (1) 不妊治療に伴う鬱状態の早期発見 4) 場面別カウンセリングの展開 (事例に基づく総合役割演習・逐語録を使った総合評価)	45
	10. 不妊症看護マネジメント	患者中心の、安全でより質の高い医療を推進するための体制づくりに寄与する不妊症看護認定看護師としての役割・機能を理解し実践できる。	1) 生殖医療チーム (1) 生殖医療チームの必要性 (2) 専門職とその役割 2) 多職種との連携(周産期医療チーム、がん医療チーム、リハビリテーションセンター、教育機関、行政機関等) 3) リスクマネジメント (1) 生殖医療に伴う医療事故予防 (胚や配偶子の取り違い事故・卵巣過剰刺激症候群・関連機器の安全確保) (2) 生殖医療事故に関する判例 4) セルフマネジメント (1) 看護職者のストレスマネジメント 5) 生殖医療における治療環境の整備 (1) 不妊相談室の開設・運営 (2) 不妊教室の企画・運営 (3) 看護師への指導と人材育成	15

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
学 内 演 習	<p>不妊症看護演習</p> <p>健康教育、成人教育の理論的背景を踏まえた教育的アプローチに則り、不妊症看護の対象のためのクラスの企画から評価までの一連の過程を実践できる。</p> <p>個別的なニーズに応じた内容について、相談内容のアセスメントから評価までの一連の過程を実践できる。</p> <p>不妊症看護分野において、特有の臨床的ケアの向上や看護体制構築に必要な認定看護師としての活動を理解し実践できる。</p>	<p>1) 生殖医療のニーズに応じた集団教育</p> <p>(1) 教室の企画</p> <p>①対象の選定・ニーズ査定（不妊治療、生殖補助技術を受ける対象者、思春期や成人期の若年者、治療後の妊婦・更年期女性）等</p> <p>②目標の設定</p> <p>③教育内容の精練</p> <p>④教育方法・教材の活用</p> <p>(2) 教室の実施</p> <p>①事前準備</p> <p>②会場設営</p> <p>③進行・タイムマネジメント</p> <p>(3) 教室の評価</p> <p>①企画評価</p> <p>②過程評価</p> <p>③結果評価</p> <p>2) 生殖医療のニーズに応じた個別相談</p> <p>(1) 相談を受ける場の環境整備</p> <p>(2) 相談内容のアセスメント</p> <p>(3) 問題に対する目標設定</p> <p>(4) 相談の計画立案</p> <p>(5) 個別相談の実施・評価</p> <p>①対象による評価</p> <p>②実施者の自己評価</p> <p>(6) 臨地実習のケースレポート作成とプレゼンテーション</p> <p>3) 看護職者に対する指導と相談対応（コンサルテーション）</p> <p>(1) 看護職者の指導</p> <p>①看護職者を対象とした不妊症に関する研修会の計画立案</p> <p>②看護マニュアル・患者教育用ツールの作成・体制づくり</p> <p>(2) 看護職者からの相談対応（コンサルテーション）</p> <p>①コンサルティイーへの対応場面のシミュレーション</p>	60

教 科 目	教科目のねらい	単 元	時間数
臨地実習	<p>施設見学も含め実習施設：不妊症専門クリニック・大学病院等の外来・病棟・不妊専門相談センターにおいて、下記のねらいを設定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不妊外来を訪れた患者及びカップルのアセスメントを行い、看護実践ができる。 2. 不妊外来を訪れた患者及びカップルへの支援、生活面におけるセルフケアの支援を踏まえ、検査・治療周期のコーディネートが実践できる。 3. 不妊外来における初回相談・検査・治療の全過程における実践を通じ、認定看護師の役割の実際について理解できる。 4. 生殖医療に関わる多職種の役割を理解し、チームで協働するための調整能力を身につける。 5. 患者及びカップルの倫理的問題を判別し、倫理的判断のもとに、関係するすべての人に配慮する能力を身につける。 6. 患者中心の生殖医療を提供するために必要なシステムについて考察できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護実践実習 初診受診時患者1事例と生殖補助医療を受ける患者1事例の看護実践を通じ(1)～(5)を学習する。 機会に応じて(6)～(8)を実践する。 (1) 対象者及びカップルの身体的・心理社会的アセスメント(問診・観察) (2) カウンセリング技術を用いた情報提供と相談 (3) 不妊検査の介助と説明(検査の説明とコーディネート) (4) 不妊治療の介助と説明(治療の説明と治療周期のコーディネート) (5) セルフケアへの支援(生活相談・指導、自助グループの紹介など) (6) 妊娠判明時及び妊娠後の看護 (7) 流産や異常症状出現時の看護 (8) 妊娠不成立あるいは不妊治療を断念しようとする対象者への看護 2) 看護実践見学実習 機会に応じて見学する。 (1) 不妊専門相談の実際(電話相談等) (2) 生殖機能温存を希望するがん患者への対応(診察・相談場面等) 3) 指導・相談対応実習 (1) (2)については、いずれかを実施する。 (3) (4)については、認定看護師の実践を通じ学習する。 (1) 患者を対象とした集団教育の企画と実施・評価 (2) 生殖医療に関わる看護職者・その他医療職等への指導 (3) 生殖医療チームにおける連携・調整、コンサルテーション (4) 倫理的な判断とその判断に基づいた関わり 	180